

『進歩』

現代文化社発行

昭和九年六月〜昭和十年七月（全十四冊）

第一巻第一号 昭和九年六月号 一日発行

— 創刊号 —

「自由主義者」の進歩性と反動性 世界史を飾るユダヤ系の偉人 トピック欄 片眼の作業／日本の学者が恥を かいた話	戸坂潤 N・I・S	2 3 10 16
弘法大師も取持たなかつた縁 — 故直木三十 五氏と私—	瀧川政次郎 千葉亀雄	17 22 18 25 21
不安時代の文学について		
東京と大阪	坪内士行	26 27
お上りさんの感想	貴司山治	27 29
大阪にかへつて		
日本の戦争文書 — 主として平田晋作の戦争 論について—		
「葡萄の葉と科学」を読む（*転載）	ヴェ・ヴィシニエフスキイ／本間七郎訳 杉田直樹	30 33
文化時評		

スポーツの政治性／何が民族主義の「復興」
か

真の文芸復興とは何か？／ゴリキイとセ
ラフイモーウイツチの論争

学生控室 自由主義研究会生る（法大文科生
S）／安政生れの大学生（日大KY生）

六月の映画

劇評 芝居月評

新しき児童文化の建設 — ソブエート同盟児
童の校外教育—

読書室 「日本文化の再検討」を読む

最近文芸の動向を語る 新進婦人作家座談会

読書室 「新支那読本」を読んで

学生控室 将軍の科学論（K生）

漁夫の利（*小説）

編輯後記

中山耕太郎	34 36
大下晋平	38
高季彦	39
本山荻舟	40
新島繁	42 45
松山信一	46
窪川いね子	47
松田解子	48 53
若林つや子	49
木下歌子	50
小坂たき子	51
平林英子	52
本誌記者A・B	53
世田三郎	54
木下歌子	55 63
孤煙 O S F	64

第一卷第二号 昭和九年七月号 一日発行

女性の肉体についての社会科学	岡邦雄	2	3	7
文化時評 東郷元帥の長逝／ソ同盟の太陽熱	大下晋平	8	3	11
応用	戸川貞雄	12	3	13
婦人雑誌に就て——或る理想主義者の回顧——	木下歌子	12	3	13
朝／鮎 (*詩二篇)				
江戸のブルジョア (三越の開祖) 三井八郎兵衛高利	田村栄太郎	14	3	16
衛高利	小林雄一	17	3	20
瀆職の話 ——この社会にどんなにして起るか——				
新進批評家エグチ・ワメク／一人三役のヴァルガ／ザメンホフもユダヤ人	N・I・S	20	3	20
北極を縦横に馳駆した飛行機群 シュミツト				
北極探検隊の遭難とその英雄的救助	津田政男訳	21	3	24
読書室 イーリン著「書物」をすゝめる	金井繁	24		
日本を愛すればこそ ——廿年振りに見た進歩と欠点——	藤田嗣治	25	3	27
劇評 芝居月評	愚全洞人	28		
夏と旅 支那山寺の客堂	後藤朝太郎	29	3	32
思想界新人評	R・R・R	33	3	35
舞踊評	蘆原英了	36	3	36
映画紹介	高季彦	37		
新たに再組織されるソヴェート作家同盟の規約	ソヴェート作家同盟組織委員会／本間七郎訳	38	3	41

自然は芸術を模倣する
読書室 能智修弥氏著「婦人問題の基礎知識」
を読む
新庄嘉章 42
3
44

座談会 東都各大学の現勢を語る
松田解子 44
世田三郎 45
吉田良三(法政) 46
村上敏夫(法政) 3
52

鈴木元三(慶応)
大村良一(慶応)
川口三郎(文化学院)
大原次郎(早稲田)
田村信吉(第二早高)
山口一夫(帝大)
高田哲夫(立教)
大橋次郎(上智)
本誌記者A・B

広告 (*『週刊時局新聞』)
童話 左ぎつちよの正ちゃん
小川未明 54
3
56

世界最大のレコード「録音館」イズベスチア
四月五日

創作 本望
貴司山治 57
3
63

編輯後記
孤煙 64

第一卷第三号 昭和九年八月号 一日発行

第一卷第六号 昭和九年十一月号 一日発行

隨筆 電車の見えない電車通り	中條百合子	23
裏はんとする紙幣インフレ時代	長谷川光太郎	28
広告 (*『週刊時局新聞』)		30、22
時の人と問題の人 (内田鉄相山道襄)	永田町浪人	32
世界一の飛行機製作技師アントとはどんな人間か?	富士辰馬	35、34
新芸者論	赤神良讓	36
松竹レヴウを觀る	塩入龜輔	40
二科展を見る	矢部友衛	41
讀者通信 (一サラリーマン/吉田生/K・O生/逗子生/Y生)		42
人物再檢討 岡本一平論 「漫画論手引草」の道すぢ	岩松淳	44
劇評 芝居月評	渥美清太郎	47
文化時評		49
1 街の勇士風景/2 文相のババ・ママ論	丸山角夫	50
3 制服受難物語/4 飯米差押へ禁止法案/5 ヒットラーの大統領當選		51
6 作品の政治性	河本勝男	52
直接読者ととなれ	大下晋平	54
ラヂオ評 (演芸放送を中心に/ニユース演芸批判)	編輯部	59
編輯後記	新島繁	60
		61
		62
		63
		64

世界・列強・独裁者 無軌道會議	岡田復三郎	2
時の人と問題の人		13
牛塚虎太郎	高野隆	14
大橋忠一	谷川浩	16
樂界新人の薄命 優秀なる批評家の欠除 新刊紹介 細田民樹著「犬吠岬心中」/上田進訳編「マルクス・エンゲルスの芸術論」	伊庭孝	18
/窪川稲子著「牡丹のある家」		21
實際に見て来た滿洲国 (*文と絵)	荒井陸男	22
隨筆 台風と村の祭	丸山義二	25
空のスポーツ パラシユート	佐野英訳	28
日記	神山潤	32
科学隨筆 転換期の自動車	梶谷弥兵衛	32
支那婦人の先駆者 秋瑾女士の話	浅川謙次	36
文化時評		39
1 ソ同盟の聯盟加入/2 軍部のパンフ問題	河本勝男	40
3 関西大風害の脅威	西村成吉	45
文化時評		46
華族小論	岡邦雄	47
讀者通信 (渋谷一読者/一学生/渋谷生)		48
能智修弥氏著「婦人問題の基礎知識」を評す (*転載)	松田解子	49
国際ニユース 中華ソヴエート婦人の文化的向上		50

広告（*中山耕太郎『新支那読本』）

ジエームス・ジョイスか社会主義的レアリズムか？

漫画 作家のタイプさまざま
カール・ラデック／津田政男訳

エスペラント欄 ユー・ガンフ

月夜 仲町貞子

編輯後記 64

51

52

54

56

57

58

59

63

第一巻第七号

昭和九年十二月号 一日発行

労働者と語るゴリーキイ／ソヴェートを訪問

したH・G・ウエルス夫妻（*写真）

欧米軍需工業会社 戦争の製造者を調べる

国際ラヂオ空中戦

講座 日本近代陸軍の発達史

時の人と問題の人

児玉秀雄論

小栗一雄論

マクドナルド

ソヴェートロシアの穀物収穫 早魃は遂に征服

された

国際ニュース 結婚及び離婚の自由

漫画 独裁者万歳！

「平和外交家」バルツォー マルセイユ「悲劇」

1

2

7

10

13

14

16

18

19

20

24

25

25

の真相

「赤都」瑞金の陥落

三四年をみおくる（*漫画）

文壇小景／坊さん小景／椅子の値上る

「その夜の女」の行方

劇団『トップ』は誰に？

『年末の美術家』

飯が食へぬ文芸

報告文学 電気局

時代の明暗 — 『明治四十年代』その他—

（*『進歩』各号主要目次）

文化時評

落語「天災」と太陽黒点説 — 自然災害は

不可抗力か— 「非常時」利得税の創設

— 「非常時」損失は一体どうする—

農村救済と官吏の醜金 単なる「同情」で

あつていゝか？／赤十字国際大会

新刊紹介 『われらの成果』／『一九三四年

詩集』／『死せる魂』第一部（上田進

訳）／『日本と次の大戦争』

国語を大事にしたい

読者通信 店頭のエピソード（池袋、豊島生）

／レデック礼讃（千葉一読者）／我々の雑

誌（岡山横山生）／可愛い赤坊（京都岩倉

生）／もつとコクのあるものを（叢雲生・

日高口石井生）／編輯部より

カール・ラデック

大下晋平

コンベトクラブ合作

缺糸太郎

小野沢亘

三浦滋

田代秀

関谷陸児

押田信作

寺島一夫

河本勝男

青木為三

福永恭助

26

29

30

32

33

34

39

46

50

50

51

53

56

54

56

ひとごとと我身のこと アンリー・バルビュース／大倉道太訳
 エスペラントの起源 ―ザメンホフ博士の誕生日
 の記念に―
 編輯後記

第一卷第八号 昭和十年新年号 一月一日発行

暁の一九三五年だ

労働者生活座談会（東京市バス運転手、同市

電車掌、石鹸工、ガソリン・ガール、看護

婦、本社記者二名）

一人一殺 鮎川義介論

迎春隨筆

羅馬での新年の追憶

大吉祥裏の劉伯翁 金に徹底した或る支那

人の話

猫と葡萄酒 ヨタ話のリアリズム

一人一殺 友松円諦論

文化時評

人権問題の意義 ―社会大衆党の怪声明―

／東北凶作地の救恤基金募集 ―救恤の

後に来るものが重要だ―

第六十六臨時議会 ―将して「災害救済」

議会たりえたか―

木村恒夫

34
36

河本勝男

30
34

緒方信吉

29

貴司山治

22
28

後藤朝太郎

18
22

荒井陸男

14
18

渋川徹

13
12

1

一人一殺 結城豊太郎論
 批評家の客観的公正について
 「高橋財政」とは何んなものか
 ヒトラアの小僧
 映画評論 現代映画界の途 ―大になる期待

を―
 新春に際し敢えて苦言を呈す

田中純一郎

千葉亀夫

新居格

戸坂潤

玉城肇

松田解子

上泉秀信

下村千秋

秋田雨雀

田辺茂一

藤森成吉

逸名氏

新島繁

森山啓

如月敏

木下歌

H・G・ウエルズ

新島繁

ロマン・ロラン

モスクワの友へ ―社会主義的リアリズムに就

64
65

64
65

58
63

56
57

54
55

52
55

53
53

52
52

51
52

51
51

51
51

50
50

50
50

49
50

49
51

48
48

45
44

38
37

一人一殺 千石興太郎論	堀田義次	53
宗教復興とインテリゲンチヤの問題について	中條百合子	54
の座談会	窪川稲子	61
	貴司山治	
	河本勝男	
	岡邦雄	
	壺井繁治	

広告 (*山宮允『明治大正詩書綜覧』)	蘆原英了	62
パンテエヂ・シヨウを見て	ザメンホフ	63
エスペラント欄 希望	本庄陸男	64
愛情の紙片	加賀能一訳	65
母よ、さらば		66
編集後記		67
		68
		69
		70
		71
		72
		73
		74
		75
		76
		77
		78
		79
		80

第二卷第三号 昭和十年三月号 一日発行 (通巻10号)

議会と鵜呑み	○生	1
インチキ宗教めぐり 『ひとのみち』の巻	森田天溪	2
文化時評 モヒ中毒患者の増加について／豆		3
まき興行／『男装の麗人』／小学教員の内		4
職問題／中條百合子氏の『正式結婚』につ		5
いて		6
トピック欄	壺井繁治	10
		15

『米穀自治管理』の話 台所にどう響く	菊田一雄	16
饗宴／平凡な事実 (*狂詩)	永見達	19
イロハかるた今様見立て	世田三郎文／朝野方夫絵	9
日本の新聞記者の寧都訪問記	中野重治	20
食堂ガール (*詩)	新島繁	24
五百円を一万円にする新案利殖法	片岡鉄兵	25
『地上に待つもの』を読んで	壺井繁治	27
笑ひ	松田解子	27
非常に面白いです	上田進	27
『村の話、町の話』原稿募集		30
映画紹介 白夜 梗概／解説	南次夫	29
ソヴェート・学校点描	エス・リヤーフ	31
科学随筆 ロケットで星へ行けるか	梶谷弥兵衛	32
『文学古典の再認識』のために (*再録)	秋田雨雀	35
豆砲壘		37
講座 日本近代陸軍の発達史 (三)		38
三成物語	西村成吉	41
日英米に建艦競争起るか？	貴司山治	42
長屋スケツチ	浜口鶴雄	43
二十五年前の雑誌『進歩』	小島豊子	44
早春	孤煙	49
『文学古典の再認識』を読んで	細野孝二郎	50
エスペラント欄 演説	牛込区日生	51
編輯後記	ザメンホフ	55
		58
		65
		71
		71
		72
		77
		77
		78
		79

第二巻第四号 昭和十年四月号 一日発行 (通巻11号)

巻頭言 今春の社会色	鈴木安蔵	1
天皇機関説問題に就て鈴木安蔵氏にきく わが郷土を語る	鈴木安蔵	2 5
村のスケツチ (静岡)	橋本英吉	6 7
蘭庭景気 (島根)	杉内いち	7 9
土地を廻る紛争 (秋田)	鈴木清	9 13
『だんまり』の論理 — わが農民生活見聞 記—	立野信之	13、14、32
故坪内博士と映画	立花高四郎	15
社会時評 『非常時』強盗の氾濫／「腹」の 哲学／宗教家と軍人の握手	秋沢修二	16 19
幕末日本の科学者物語 洋食を喰った大名の話	貴司山治	20 24
科学随筆 タイヤーのロマンス	梶谷弥兵衛	25 28
『私の貰ひ度いお嫁さん』〜安部さんの放送〜	玉城肇	25 28
陸軍異動評 石川閣の台頭	北村三郎	29
ぼくらのスクラップ ハチ公は忠犬か／争議 — 指導者から重役へ／美濃部博士告発状		30 31
文化時評 八十の手習ひ ロシアと日本のお 婆さん	堀口豊	32 34
上泉秀信氏戯曲集『村道』		34
イロハかるた今様見立て		35 38

世田三郎文／朝野方夫絵

豆砲壘

いんちき宗教めぐり『ひとのみち』の巻(二)	森田天溪	40 45
ソヴェートの刑務所訪問記 開放された大農 場『五月一日』	フォン・ケルバア女史／大下晋平訳	46 50
町の話・村の話		
其後の地区(小樽)	岩本一夫	51 52
義金の使途 わが村ではどうか(山形県)	沼沢亮一	52 53
文芸時評 島木健作の評価について	平野謙	54 58
都新聞評 『文学古典の再認識』を評す — その先駆的な役割—		
創作 出発	佐々木一夫	59 75
エスペラント欄 演説 — つづき—	ザメンホフ	76 77
編輯後記		78

第二巻第五号 昭和十年五月号 一日発行 (通巻12号)

流行形態と流行心理	新居格	2 5
特輯 転換点に立つ国際対立		
水野広徳氏との一問一答 — 最近の日ソ外 交について—	水野広徳	6 9
ナチス・ドイツの再軍備(*写真二枚)		9
最近に於ける欧州政局の動向 — ヒトラー の『爆弾宣言』を中心に—	河本勝男	10 16

日支提携問題について	杉田重夫	16
英仏協約について	ウイクトール／笈川文雄	20
婦人問題の二著 「婦人問題の基礎知識」／ 「葡萄の葉と科学」	山本正一	22
広田外相の横顔	山本正一	23
実法律律から見た美濃部氏処分問題 ——不作	美杉喜八	24
為共犯について——	美杉喜八	25
インテリゲンチヤと専門家について ——レエ	エム・ゴルキイ	26
ニントと語る——	エム・ゴルキイ	28
広告（*『文学評論』五月号）	木村禧八郎	29
第六十七議会と今後の経済界	木村禧八郎	30
秋田雨雀氏と一問一答 ——故坪内逍遙につい て——	秋田雨雀	33
ソヴェトで人心撮影機発明さる	江口渙	34
坪内逍遙先生の片影	後藤宙外	35
兵隊さん用語	後藤宙外	36
広告（*『詩精神』五月号、詩人祭、詩人叢 書『プランバユ中隊』）	新島繁	38
十週年を迎へたソヴェート・ラヂオ	新島繁	39
豆砲壘	新島繁	40
人類の進歩に役立つ人々 地動説を主張し たコペルニクスの話	中島清之助	42
広告（*『労働雑誌』五月号）	中島清之助	43
高橋作左衛門物語 黎明日本のために闘つた	貴司山治	44
昔の科学者（二）	貴司山治	46
イロハかるた今様見立て	世田三郎文／朝野方夫絵	48
		51
		52
		54

広告（*『歴史科学』五月号）	ソヴェト刑務	55
ソヴェト囚人の『同志裁判』	ソヴェト刑務	56
所の新風景	フォン・ケルバア女史／大下晋平訳	56
町の話・村の話	フォン・ケルバア女史／大下晋平訳	59
呉市『国防と産業博覧会』案内（広島県）	大島正	60
こんな世界もある（京都市）	上仲綱子	61
島の遍路（香川県）	沖大助	63
島	沖大助	64
広告（*『社会評論』五月号）	藤井民夫	65
グリイム事件 帝政ロシアの軍機漏洩事件	藤井民夫	66
威力を誇るソヴェート赤軍	藤井民夫	72
良きゲーテ全集	アントル・ガボル／丸目秋一訳	73
エスペラント欄	中垣虎児郎	77
編輯後記	中垣虎児郎	78
		79
		80

第二巻第六号 昭和十年六月号 一日発行 （通巻13号）

巻頭言	1
特輯 今日の封建性	
我が立憲政治の「封建性」	鈴木安蔵
現代思想に於ける封建性の問題	船山信一
文学に於ける「封建性」	大下晋平
日本資本主義の性格	立田信夫
アメリカ学生の大反戦示威 参加者十五万人	立田信夫
	21
	27
	29
	26
	22
	26
	14
	21
	2
	13

ヒットラー治下のドイツ学生	美濃部亮吉	30
復古的潮流について	千葉亀雄	33
昔の鎖国と今の鎖国	壺井繁治	36
スターリン氏とウエルズ氏	戸坂潤	38
「文学古典の再認識」(*再録)	貴司山治	41
京大事件二週年	梯明秀	42
電報一本で雨を降らせる		49
文化時評 監視される中学生	木村恒夫	50
科学随筆 最高速度の自動車	梶谷弥兵衛	54
アメリカ作家大会について	柁不二夫	56
名著物語 ベーベルの「婦人論」	玉城肇	57
豆砲壘		60
ソヴェート、ロシアの将棋熱		61
講自由主義征伐	K生投	62
人類の進歩に役立だつた人々 全面的人間の		63
典型 レオナルド・ダ・ヴィンチの話	新島繁	64
日本新聞のソ聯邦記事	K・S	69
インチキ宗教めぐり 『金光教』の巻	森田天溪	70
アキレ返つた	下谷一読者	75
モスコの地下鉄	エル・ウエネル／高村英夫訳	76
中條氏のバルザック評	一読者	79
読書室		
玉城肇著「日本家族制度批判」への希望	成瀬忠男	80
「欧州文芸の歴史的展望」を読んで	波多野千恵子	81
エスペラント欄 サルートン・エスペランテ		
イスト	中垣虎児郎	82
		83

間宮林蔵の生涯 黎明日本のために闘つた昔の科学者(三)	貴司山治	84
ヒ島独立問題の意義		88
編輯後記		89

第二巻第七号 昭和十年七月号 一日発行 (通巻14号)

卷頭言	壺井繁治	1
自然科学と世界観	林謙	2
『今日の封建性』の抹殺 — 鈴木茂三郎氏の見解について —	河本勝男	7
スクラツプ 日本婦人の死亡率 所謂文明国最高率		14
N・R・Aの動揺	二宮正三	15
北支事件問答	杉田重夫	25
ナチスの箝口令と新聞弾圧	鈴木東民	29
文化時評 広い世間	中野重治	33
婦人時評 婦人相一と月	松田解子	40
人物短評 深井英五論	長谷川光太郎	45
ヴェットフオーゲル氏に会ふの記	新島繁	46
旅愁	吉井勇	49
梨と鯉と	戸川貞雄	50
一羽の荒鷲は三羽となつて蘇へる — ゴルキ		51

イ号墜落の報に接して―

科学随筆 交通整理はどうしたらよいか

小学児童の校外労働

豆砲壘

世界情報

朱徳は「戦死」したか？

忘れられゆく災害地 ―台湾震災地のその後

の状況―

ソヴェート・ニュース

名著物語 『ローザ・ルクセンブルグの手紙』

読書室

「文学古典の再認識」について

『冬を越す蕾』を読んで

現代宗教批判講話

大恐慌とその政治的結果

詩集『沙漠の歌』と歌集『地図を描く鳥』

日本のダビンチ平賀源内 黎明日本のために

闘った昔の科学者 (四)

人類の進歩に役立つ人々 党派性詩人の典

型の ダンテ・アリギエリの話

編輯後記

壺井繁治

梶谷弥兵衛

土方定一

中野忠夫

中野忠夫

アグネス・スメドレー／中野忠夫訳

楊達

楊達

玉城肇

本庄陸男

細野孝二郎

田辺惣蔵

野村多喜雄

新島繁

貴司山治

新島繁

新島繁

新島繁

新島繁

新島繁

新島繁

現代文化社版『進歩』について

欧文題号は「LA PROGRESSO」。創刊号表紙には「現代文化の総合雑誌」とあり、二号以降は毎号、「綜合文化雑誌」と銘打たれている。

昭和九年六月の創刊号以降、翌年七月の二巻七号まで毎月一日付けで計十四冊刊行された。以後の号は未確認。なお昭和十年一月一日発行の号は「一巻八号」で、翌月号は「二巻二号」。「二巻一号」は存在しない。現代文化社発行（代表岡田復三郎）、編輯および発行人は隅福寿、発行所住所「東京市京橋区銀座西八ノ五（日吉ビル）」は一貫している。印刷所は最初、東洋印刷所、一巻八号から松田印刷所、二巻六号・七号は京橋巧芸社。定価は十銭。一巻八号から二十銭。

表紙は小野沢亘。一巻五号から伊原宇三郎。二巻二号から朝野方夫。

同志社大学人文科学研究所・京都大学人文科学研究所蔵原本を参看した。

(村田裕和)